

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオール上大岡教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月23日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和8年2月20日		～ 令和8年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別と集団を組み合わせたプログラムの提供。	集団と個別を組み合わせるプログラムを行っているため、個別特化の内容と、集団における内容をそれぞれ設定して取り組むことができる。	プログラムの内容が固定化しないよう、教材や書籍などを充実させていく。
2	エビデンスに基づいた支援とその効果検証。	応用行動分析、認知行動療法、TEACCH、PECS等の知識、経験に基づいたプログラムを提供している。また、データを集積することで効果検証を行っている。	座学と実践を組み合わせたよりいっそうの研修の充実。
3	児童一人ひとりに寄り添った支援。	児童一人ひとりの認知特性や見通しの立てにくさに合わせ、個別のスケジュール表や絵カードによる視覚支援を標準化している。トークンシステムを用いたスモールステップでの目標設定により、達成感と自己肯定感を育む支援を実践している。	児童の取り組んでいるツールや目標などを、他機関と共有する方法を検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の児童との交流機会の少なさ。	公園へ出かけるなどの活動は行っているが、交流の機会を意図的に設けたことがない。また、そのニーズがあるかの把握を行っていない。	まずはニーズを把握し、保護者にも意見をいただく機会を持つ。対子ども同士の交流よりも前段階として、地域の方々に認知してもらうための散歩やあいさつなどの活動を行う。
2	保護者同士が交流を持つ機会の少なさ。	保護者同士で交流することへの希望がどの程度あるか、また、どのような交流を希望しているかなどの把握ができていない。	職員が主導になってしまうと「教える側」となってしまう可能性があるため、ペアレントメンターの派遣を依頼するなどして、「先輩保護者の話を聞く」などの機会を持つことを検討する。
3	ホームページ等からの情報発信の少なさ。	写真等の使用の同意を得ることができていない。	児童の写真を使用せず、教材や環境の写真を中心とした情報発信を行っていく。